



Title	グローバルに生きる！
Author(s)	小峯, 茂嗣
Citation	GLOCOLブックレット. 2016, 18, p. 134-135
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55574
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

5-1 グローバルに生きる！

小峯茂嗣 大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任助教

「グローバルに生きる！—はじまりはGLOCOLだった」は、GLOCOLが運営してきた大学院高度副プログラム、海外フィールドスタディ、海外インターンシップといった教育プログラムに参加し、現在では様々な分野で活躍している卒業生／修了生4名に発表してもらいセミナーとして実施しました。

大阪大学はその教育方針として、「高度な専門的知識をもちながら、同時に広い視野と豊かな教養をもって、確かな社会的判断のできる研究者・職業人を育てる」ことを掲げており、「教養」(広い視野に立った確かな社会的判断力)、「デザイン力」(自由なイマジネーションと横断的なネットワーク構成力)、「国際性」(異なる文化的背景をもつ人をよく理解するコミュニケーション能力)を涵養することを方針としています。とりわけGLOCOLは、3つ目の「国際性」の強化を担ってきました。

これまでもGLOCOLでは、これらのプログラムへの参加者数の推移などは数字で示せる成果として公表してきました。しかしながら、社会に巣立つ学生たちにとって、GLOCOLの教育プログラムによって培った経験や、育まれた視角が、その後の彼ら彼女らのキャリアデザインにどのように影響を与えることができたかを検証することは行ってきませんでした。たしかに一概に数値化して検証できる性質のものではないこともありますし、単純に「〇〇をさせば、(阪大が目指すような)研究者・職業人を育成できる」という法則があるというわけでもありません。そのため、このようなセミナーという形で、4名にそれぞれの事例を紹介してもらいました。

その中では国内外での多様なフィールド経験による視野の広がりや、そこでの出会いが発展的に研究につながったこと、また世界で働きたいという「想い」を「現実」にしていく後押しになったことや、異なる専攻の学生たちとの学びに刺激を受けたことなどが語られています。

セミナーのタイトルは「グローバルに生きる！」としました。それは外国

を飛び回って働くということもそうですが、すでに日本国内でも、いわゆる「地域の国際化」は進んでいます。自分(たち)と異なる文化、異なる環境、異なる境遇を尊重しあい、そのような人々と共に語り、共に働き、共に生きることができるということ——GLOCOLが学生たちに、そのような資質を育ててきたということが、4名の報告から見るができると思います。